

広報

天使ひょういん

冬号
2018 JAN vol.47

T E N S H I - H O S P I T A L



タイトル：「楽」(がく) みなさんに楽しいことがたくさんありますように、
作　者：田中 恵(Tanaka Kei)
ダウン症の書家。1990年3月、室蘭生まれ。



- p2-3 Scope 「臨床検査科(生理検査室・検体検査室)」
- p4 Inside hospital 「麻酔科」
- p5 特集「地域のきずな」
- p6 「天使病院臨床研修プログラムについて」
- p7 健康レシピ「健康寿命を延ばすレシピ」
- p8 お知らせ

謹賀新年



臨床検査科

(生理検査室・検体検査室)

～Department of Clinical Laboratory～
(Physiology laboratory & Specimen laboratory)

病院で受けていただく検査には、専門の国家資格を持った「臨床検査技師」があたっていることをみなさんご存知でしょうか？医師自ら検査していた時代もありましたが、医療が高度化・複雑化する中で、国家資格である検査を専門に行う「臨床検査技師」が誕生しました。今回は臨床検査科の役割や仕事への思い、やりがいなどを話してもらいました。



K：臨床検査科の紹介をお願いします。

Y：みなさん、血液検査や尿検査、心電図や超音波（エコー）などの検査を受けたことがありますよね。これらの検査を担当しているのが、私たち臨床検査科です。臨床検査は、患者さんから採取した血液や尿、便、細胞などを調べる「検体検査」と、心電図やエコーなど直接患者さんを調べる「生理検査」の大きく2つに分かれています。臨床検査科にも検体検査室（第一岸本臨床センターの院内ラボ）と生理検査室の2つの部門があります。スタッフはそれぞれ10名と11名の総勢21名です。

S：どのような検査をしていますか？

Sa：生理検査室では超音波（エコー）検査や心電図、脳波、聴力、肺機能、染色体、遺伝子検査などです。当院では、輸血用の血液の管理も生理検査室で行っています。

Ku：検体検査室では血液や尿、便、細胞、この季節にはインフルエンザの検査も行っています。最近ではピロリ菌検査も院内で検査できるようになりました。

S：天使病院ならではという特色はありますか？

Y：染色体・遺伝子検査を院内で行っていることは大きな特色です。主に出生前診断として、専門の技師が羊水や血液の細胞培養を行い、染色体を分析しています。民間病院で行っている施設は少ないと聞いています。それに、「乳児聴力スクリーニング検査」や乳児検診で超音波による「乳児股関節脱臼スクリーニング」など、子どもの検査が多いことも特色の一つですね。



K：臨床検査技師になろうと思ったきっかけは？

Y：なんらかの資格を持って医療に携わりたいと考えたのがきっかけです。そこで選んだのが「臨床検査技師」の資格でした。

Ku：私は白衣を着て試験管を振る仕事がしたいと思ったからです。理科の実験が好きだったんですよね（笑）。まさにそれが今の仕事でした。

K：「資格」について教えてください。

Ku：私たちは皆「臨床検査技師」という国家資格を持っています。この資格で、生理検査と検体検査という全く異なる分野の検査全般を行うことができます。さらに「専門資格」として、



インタビュアー
K：菅野（管理栄養士）



インタビュアー
S：塩見（看護師）



(生理検査室)
Y：八巻
(臨床検査技師)



(生理検査室)
Sa：佐々木
(臨床検査技師)



(検体検査室)
Ku：栗山
(臨床検査技師)

各分野に特化した資格があり、スタッフはそれぞれの分野でのプロフェッショナルを目指して自己研鑽を積んでいます。

K：専門資格にはどういったものがありますか？

Y：当院の例でいえば、超音波検査士（公益社団法人 日本超音波医学会認定）や血管診療技師（4学会構成血管診療技師認定機構）などです。超音波検査を行う職員のうち認定超音波検査士の有資格者は5名、血管診療技師の資格は2名が取得しています。私たちは技師として、より高い技術と確かな検査を常に追求しています。

Ku：検体検査の分野にも細菌学や病理学など、様々な資格があります。技師として1人前になるためには何年もの期間が必要ですし、ある意味、職人的な要素もあります。最終的に機械でわからないことや判断は、人の目や腕によると考えているので、そのため日々勉強をしています。



階でお会いすることがあります。そこで「緊急性」を判別したり、「病変」を発見することで、早期治療につながります。患者さんからも感謝のお言葉をいただくこともあります。治療方針は最終的には医師が総合的に判断しますので、そのためにも間違いや見落としがないように十分配慮しています。常に緊張感をもって仕事をしているため、その気持ちがより専門的な勉強を行うモチベーションに繋がっていると思います。

Ku：正確かつ迅速にデータを提供すること。そのためには「検体」の取り扱いには細心の注意を払い、感染防止にも常に気を配っています。

K：最後に読者の方にメッセージをお願いします。

Ku：検体検査室ではより早く正確な検査結果を出すために、2018年春までに性能の高い機械に順次変更していく予定です。

Y：生理検査室は若手スタッフが増え、さらに明るい雰囲気の職場になりました。メンバーが自然と専門性を高めるために勉強していく雰囲気もあります。この状態を保っていきたいと思います。臨床検査科は力を合わせて、より専門性の高いプロフェッショナルを目指します。



S：この仕事のやりがい、業務上、特に気を付けていることは？

Y：治療に貢献できているという点は大きいですね。患者さんとは、来院された比較的早い段



No.8

手術麻酔(日帰り麻酔)、和痛分娩、 ペインクリニックなど 麻酔科

「麻酔科医」はあまりなじみのない医師かもしれません。手術の際の麻酔を担当する専門医師のことです。手術にともなう痛みなど、様々なストレスから患者を守る事が主な仕事です。現在は指導医3名と認定医1名の計4名と麻酔科研修医1名で対応しております。麻酔科専門医として一人前になるには、少なくとも10年以上は必要と言われます。この期間は長いですが、医療の安全を考えればむしろ短いと考えます。麻酔管理は手術前の診察(状態評価)にはじまり、麻酔中の体全体

Inside hospital



ナビゲーター

麻酔科科長・手術室室長 石川 太郎先生 (Ishikawa Taro)

■経歴：2000年近畿大学医学部卒業、2009年より天使病院、
2011年より麻酔科科長、2013年より手術室室長(兼務)

■資格：麻酔科標榜医/日本麻酔科学会麻酔認定医・専門医・指導医/
日本蘇生学会蘇生指導医/日本小児麻酔科学会認定医/日本周
産期・新生児医学会新生児蘇生法「専門」コースインストラクター 他

■専門：麻酔科全般(特に周産期麻酔と小児麻酔)・ペイン・希釈式自己血輸血・高気圧酸素治療 など

私自身も心臓麻酔や移植麻酔なども含め、様々な麻酔をたくさんの施設で経験してきました。故にどんな複雑な麻酔にも対応できます。中でも帝王切開などの周産期麻酔や小児麻酔が好きで得意としております。どんなに悪い状態であっても出来得る限り良い状態で帰室していただける様に、他人からの輸血をしないで済むという可能性を広げてくれる希釈式自己血輸血法なども含め、目の前にある患者状況に対して的確に分析判断し、ありとあらゆる知識と技術を駆使しながら最良と思われる方法で随時対応しております。すなわち手術と同時に集中治療を受けている状態であるともいえるかもしれません。

■得意なことやメッセージなど

音楽は好きです。最近では、息子に触発され暫く離れていたピアノに再度向かいはじめました。多忙な中で時間を確保して譜面と向き合う事は大変ですが、今回は消音装置も取付けて夜でも出来る様にしました。ボケ防止とストレス解消も含めて継続する事が当面の目標です。日々の仕事では、これからも一期一会を大切にし“心ある安全医療”と“質の高い麻酔”を患者に寄り添いながら提供出来るように努力します。不安な事やどんな些細な事でも、ぜひ気軽にいつでもご相談ください。

■石川先生ってこんな人 (手術室主任 長 恭恵さん)

石川医師は、手術の入室調整の相談にのってくれたり、超緊急手術の受入対応や指示も早く、看護師にとっても心強い存在です。手術で緊張・不安な患者さんへ穏やかに声をかけ、素早く正確な手技で麻酔をかけていきます。そんな阿部サダヲに激似(?!で頼れる石川室長を中心に手術室スタッフ一同、安全安心な手術を受けていただけよう、周術期管理に取り組んでいます。



Outside hospital

地域のきずな
vol.12

中央区 神経精神科、心療内科 じょうぜん 上善神経医院



院長 伊藤 ますみ 先生

Profile

札幌市出身、北海道大学医学部卒業。てんかん専門医。趣味はロック♪好きなアーティストはレディオヘッド。ロックを聴くことはもちろん、音楽ドキュメンタリーを見るのも楽しみ。座右の銘である“ロックな生き方”を日々追求している。

Q. 上善神経医院についてご紹介ください。

平成23年に開業して、7年目になりました。天使病院にいたのは平成10年からの5年間と平成18年から開業まで、通算11年間ですね。間の3年間は東京の国立精神神経センターで勉強してました。「やってみない?」と誘っていたのが開業のきっかけでした。そこで改めて考えてみると、この辺りに「てんかん」を専門にしたクリニックがないことに気づいて、“やろう!”と決めました。(先生、ロックですね♪(byインタビュアー))

クリニックでは、主にてんかんの患者さんの症状に対する治療と、ライフステージごとの生活やこころの問題に取り組んでいます。最近では、高齢者の認知症の診療も増えてきました。ご家族が“認知症かも?”と心配され、ご相談を受けることが多いですね。ご家族にとって、認知症かどうかわからないでいるよりも、例え“年相応の認知症”だとハッキリとわかる方が不安は減るようですね。

Q. 先生のポリシーは?

私の専門とする「てんかん」は慢性の疾患で、患者さんお一人お一人とは長いお付き合いになります。進学や就職、結婚、妊娠、出産など大きなライフイベントも共に迎え、喜怒哀樂を共にします。私は医師として患者さんの人生に長く関わるわけです

から、その方のライフステージに合せてできるだけきめ細かく、心に寄り添ったサポートをしようと思っています。

今までも、「この患者さんにはどうすれば一番いいのだろう?」と、悩むことは何度もありました。そうやって患者さんと一緒に悩むことも私は“大好き”なんだろうと思います。大変なだけではなくて、喜びを分かち合えますから。

Q. 将来の夢をお聞かせください。

夢という大げさなものではないですが、「てんかん」がどういう病気で、患者さんにはどんな環境やいざと言う時の対処が必要かなど、もっと広く理解してもらえるように活動したいです。医師に限らず広く医療に携わる方、そして一般の方にも。まずは知っていただくことが、患者さんにとっての生活しやすい環境づくりになればいいなと思います。

Q. 天使病院との連携についてご要望などあればお聞かせください。

てんかんの患者さん、特に女性のサポートをお願いしたいです。そのためには「てんかん」に関する勉強会も喜んでさせていただくので、ぜひ呼んでください。今まで通り、これからもよろしくお願いします。

地域のきずな
vol.12
じょうぜん
上善神経医院

所 在 地:〒060-0033
札幌市中央区北3条東2丁目2-6福田ビル

電 話:011-251-8700

診療科目:神経精神科、心療内科

ホームページ:<http://jozen-clinic.com/>

休 診 日:土曜日、日曜日、祝日

診療時間:

外来受付時間	月	火	水	木	金	土
9:30~12:00	●	●	●	●	●	-
14:00~17:30	●	●	●	●	●	-





北野台中学校2年生 職場体験リポート

12月7日(木)、北野台中学校から4人の生徒さんが職場体験に来てくれました。オリエンテーションから始まり、「病院職員としての心構え」について話をしている頃は、少々表情も硬かったのですが、ミーティングルームを出て手術室での見学や体験が始まると、ようやく緊張がほぐれ、積極的に体験を楽しんでくれているようでした。

見学や体験を通じて、「責任感」や「協力することの大切さ」を感じてくれたことは、私たちにとっても嬉しく、今後の励みになりました。

金澤英至さん、伊藤翔真さん、池田萌香さん、唯野幸那さん、「1日職員」お疲れ様でした。夢を目指してこれからも頑張ってくださいね。



『札幌市東区感染対策ネットワークセミナー』を開催しました



12月5日(火)、京都第二赤十字病院 感染制御部部長の下間正隆先生をお招きして、「病院清掃・環境整備が、患者を感染から守る」と題してご講演いただきました。参加者は東区の医師、看護師、薬剤師、さらに清掃スタッフも含む約90名。自院の感染対策を振り返り、改めて予防対策と環境整備の重要性を再確認する機会となりました。



厳しく、身の引き締まる内容でしたが、イラスト満載のスライドと下間先生の関西弁の巧妙な話術で、大変楽しく学び、吸収することができました。「これでいい」と慢心せず、清掃と環境整備、そしてスタッフ一人一人の意識を日々高く保つ取り組みを継続し、医療の質向上に努めていきたいと思います。



糖尿病予防教室(基本毎月第3水曜日 14:00~15:00)※3月は第2水曜日です。

<天使ホールC>



本教室は、糖尿病の患者さんとそのご家族だけではなく、糖尿病に関心のある全ての方を対象とした教室です。予約は必要ありません。どうぞお気軽にご参加下さい。

日程	時間	テーマ	担当者
1月17日(水)	14:00~14:30	糖尿病かるた	外来看護師 森山由希子
	14:30~15:00	うちの中でできる運動～実践～	理学療法士
2月21日(水)	14:00~14:30	足病変のなぜ?何?	西7病棟看護師
	14:30~15:00	体重コントロール～なぜ必要・どうしたらいい?～	外来看護師 森山由希子
3月14日(水)	14:00~14:30	糖尿病神経障害～ほおっておくと大変～	生理検査室
	14:30~15:00	糖尿病と動脈硬化	糖尿病内科医師 吉田 和博

広報誌 「天使びょういん」第47号
発行日 平成30年1月15日
発行人 院長 藤井ひとみ
編集 「天使びょういん」編集委員会

編集後記

あけましておめでとうございます。本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。表紙の書はダウン症の書家、田中恵さんの作品です。新年のスタートにふさわしい一字を選んでくださいました。今年1年が皆さんにとって「楽」でありますように。

